

ポートランド州立大学 活動報告書

文学部比較文化学科 3 年（参加時）

1. はじめに

2 月 18 日から 3 月 11 日の約 3 週間、アメリカ・オレゴン州のポートランド州立大学の語学研修に参加した。3 週間という短い時間の中でどのように語学力向上に努めたのか、またどのような体験をしたのかを「学校生活」「放課後・休日」の点から述べていく。

2. 学校生活

私は当初、American Conversation Culture Program(ACCP)への参加を希望していたが、人数不足の為、Field Study America Plus Program(FSAPP)へ移動となった。私たちのクラスは日本人ばかりだったが、Coffee Hour Event など現地の学生と交流を深めることのできるイベントが沢山あったため、英語力、主にスピーキング・リスニング力を高めることができた。また、私は寮生であったため(ACCP は寮、FSAPP はホームステイ)、夕飯を各自でとらなければならなかった。そのおかげで店頭で 1 人で注文できるようになり、現地での生活に困らない程度の英語力を身につけることができた。

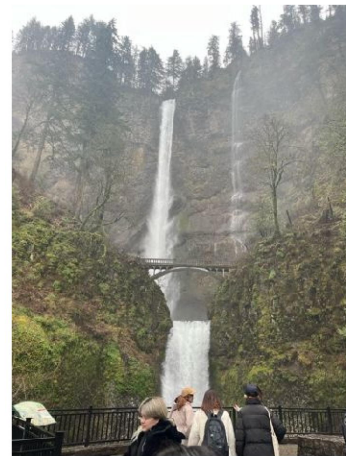
クラスは午前と午後で分かれており、午前中は 9:30-12:00、午後は 13:00-15:00 と普通の大学の授業よりやや長いが、途中 10-15 分の休憩を挟むため時間の進みは早く感じた。午前は American Conversation Class という、主に発音矯正や Body Language の習得、コミュニケーション能力の向上に焦点を置いた授業だった。朝から英語でコミュニケーションをとることにより、休憩時間に友達と話す時さえも英語になっており、英語を身近に感じることができた。Final Presentation では、授業で習った Body Language や言い回しを盛り込んだ劇をグループに分かれて披露した。午後は “Plus” Class という、主にポートランドの Pop (Popular) Culture について学ぶ授業だった。このクラスは 2 日に 1 回のペースでフィールドワークが行われ、現地の人にインタビューをしたり店頭に行ったりして「コーヒー」「ファッション」「Portlander」などについて学んだ。また、1 人 1 人の “New words” を毎日クラスでシェアして新しい単語の習得に励んだ。Final Presentation では、グループに分かれてそれぞれポートランドの Pop Culture について発表した。



左：午前クラスでの Final Presentation 準備の様子

右：午後クラスのフィールドワークで行った Never Coffee

さらに、Seattle Tour や Outlet、Columbia Gorge Trip、NBA 観戦といったイベントも多くあり、英語力向上に努めるとともに、アメリカ生活を十分に堪能することができた。



左：NBA 観戦、右：Columbia Gorge

3. 放課後・休日

前述したように私は当初 ACCP 希望であったため、放課後に small group conversation partner session という現地の学生と 1 時間会話できる時間が設けられていた。これは ACCP のプログラム内容の一部であり、そこで自分の好きなことや英語の学び方、発音の仕方などさまざまなトピックについて彼らと会話をした。私たちが会話したうちの 1 人に Grace というインドネシアから来た学生がいた。私は彼女が運営しているラジオに友人と急遽出演することになった。思いもしていなかった機会に私たちは緊張してしまい、発音も文法もぐちゃぐちゃで自分でも何を言っているのか分からなかったが、何か話そう、何か聞き取ろうとしたおかげで英語を話すことへの不安感が一気になくなり、自分の英語力に自信がついた。他の人が決してできないような体験ができたことは今後の自分の自信につながるだろうと感じた。

ポートランド州立大学には、学生がボウリングやビリヤードを楽しむことのできる施設

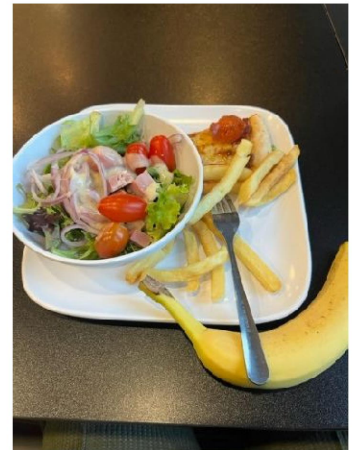
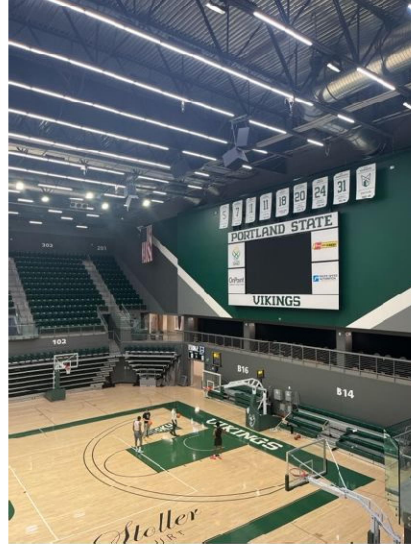
やジムが備わっており、私たちは放課後にボウリングをしたりジムに行ったりと有意義な時間を過ごした。休日は寮のみんなで古着屋やポートランドで有名な本屋“Powell’s Book”に行ったりと、ポートランド内を電車やバスを使って移動した。自分達で慣れない土地を移動できたことに感動し、どこに行ってもきっとやっつけていけるだろうと自信がついた。



左：ラジオ出演時の様子、右：ボウリングゲーム

4. 最後に

当初は 3 週間という短い時間で果たして自分の英語力は伸びるのだろうかと不安に感じていたが、沢山の現地の人たちと話していく中で、言葉が通じる喜びを感じることができ、それが自信につながっていった。単語が分からなくてもジェスチャーや文脈で通じることや、文法はそれほど重要ではないこと、話そうとする姿勢が英語力向上へつながることを身に染みて感じた 3 週間だった。私は大学卒業後、1 年間のオーストラリアでのワーキングホリデーを予定しているため、現地で 1 人で買い物できるようになったことはとても大きな自信になった。今回の語学研修で繋がった現地の友人たちと定期的に連絡を取り合い、助けをもらいながら、今後も英語力の向上に努めていきたい。



海外語学研修 参加報告書

文学部人間関係学科 2年（参加時）

学校生活

今回のポートランド州立大学での America Plus Field Study Programs では、日本全国から大学生が集まったクラスでとても刺激を受けた。学年や所属大学が全く異なる大学生と関わる機会は私にとって初めてで新鮮だった。特にこのプログラムに参加していた全員が英語学習に対する意識が高く、毎日の授業中の会話だけでも学ぶ事が多かった。具体的な時間割は 9:30~12:00 に English conversation、13:00~15:00 に Portland pop culture の授業だった。午前中はクラスメイトとの会話が中心で、「初対面の人とはどういった事を話すのが適切か」や「どう答えたら会話を広げられるか」などのテーマについて学び、クラスメイトと実践するという流れで展開された。習った会話の内容は日本語と大した違いは無いが、知らない土地で初対面の人が多い状況にあったため、定型文として使える会話のテクニックを学ぶ事はとても役に立った。私自身、大学に入って英会話をする機会が全くなく、瞬時に言葉が出てこなくてこの授業中には沢山悔しい思いをした。加えて、周りにはスラスラと話せる人もいて、自分はまだまだだと思われ知らされ、英語学習への意欲が駆り立てられた。



午後は実際に街に出てコーヒーショップ、スリフトショップ等のポートランド特有の文化を学ぶ授業だった。scavenger hunt という、10 問くらいの課題を授業時間内に出来るだけ多く達成する活動を通して、身をもってポートランド文化を体験する事が出来た。特に印象に残っているのは、コーヒー文化を経験するために、2 件のコーヒーショップを訪れてコーヒーの飲み比べをした授業だ。私はコーヒーの違いが分かるほど詳しくなかったが、実際に飲み比べてみると焙煎方法や豆の種類によって味が全く異なる事に気付くことが出来た。また、店内の雰囲気もそれぞれの店によって異なっており、市民の様々なニーズに合わせたコーヒーショップが展開されている事を学んだ。

どちらの授業も宿題が出される事はあったが、10 分あれば出来るくらいのもので、放課後に負担を感じる事はなかった。ただ、pop culture の最終プレゼンテーションは授業中に完成させられる量ではなかったため、授業外で取り組む必要があった。このプレゼンテーションは、学んできた pop culture について、更に深掘りしたいトピックを 1 つ選び、4 人グループで 10 分程度のプレゼンテーションを行うというものだった。私はコーヒー文化について発表した。他のグループは授業で扱わなかったトピックを取り上げているところもあり、とても興味深かった。

ポートランド州立大学はキャンパスがとても広く、放課後にキャンパス内を歩くだけで

も楽しかった。キャンパス内にスターバックスやピザ屋さんがあったり、ミュージアムがあったり、日本の大学よりも規模が遥かに大きくて驚いた。

また、シアトルへの日帰り旅行やNBA観戦、アウトレットでのショッピング等、学校外でのイベントも用意されていて、飽きる事無く毎日が楽しかった。



ホームステイ

私は、より実践的な英語を学びたいという気持ちとアメリカのリアルな生活を体験してみたいという思いでホームステイを選んだ。結果的に、私はホームステイのおかげでリスニング力とスピーキング力が身についたと感じる。

ホームステイ先の家はホストマザー、ホストブラザー2人の3人家族だった。ホストマザーにはボーイフレンドがいて、そのボーイフレンドにも2人の子供がいた。ボーイフレンドの一家はよく私のホームステイ先の家に来ていて、ホストファミリーのように仲良くしてくれた。日本ではタブーとされるようなこうした関係性もオープンにしているところに、アメリカの文化を感じた。

ホストマザーはほとんど毎日夜ご飯を作ってくれて、パスタやメキシコ料理が多かった。日本で食べていた味と似ている物も多く、特に苦手な料理は無かった。また、日本料理はアメリカでも人気で、一度ラーメンと寿司を作ってくれた事があった。ラーメンとは言うもののブロッコリーがゴロゴロ入っていて日本のラーメンとは全く異なっていた。しかし、日本の事が好きで、日本人である私に振舞ってくれた事がとても嬉しかった。また、別の日には現地で人気の寿司屋に連れて行ってくれて、アメリカ流の寿司を食べた。寿司と言って想像する日本の握り寿司とは全く異なる、いわゆるカリフォルニアロールだが、味は絶品だった。スパイシーナという辛く味付けされたマグロの巻き寿司が私はとても好きで、逆に日本では食べられないような寿司が味わえて楽しかった。



ホームステイ先での朝食と昼食は、用意されたパンやお菓子、フルーツ等を自分で好きなだけ食べたり持って行ったりしていいという仕組みだった。朝はベーグルやバナナやヨーグルトを食べ、昼はサンドイッチを作って持っていく事が多かった。選びきれないくらいの種類の食事を用意して頂いたおかげで、アメリカの食文化についても多くの経験が得られた。

週末には教会のバレンタインパーティーに行ったり、雪山に行ったりした。どちらも日本で経験した事のない新鮮な体験だった。雪山はホストファミリーとボーイフレンド一家で

行って、ソリ滑りをしたり雪だるまを作ったりして遊んだ。その後にロッジを訪れ、焚き火を見ながらホットチョコレートを飲んでゆったりした時間を過ごした。夜には帰り道にあるレストランでハンバーガーを食べ、アメリカの休日を満喫した。この日は留学の中でも最も記憶に残っている日で、あんなに楽しい経験をさせてくれたホストファミリーには感謝しかない。

ホームステイは当たり外れがあるというイメージがあったのだが、私のホストファミリーはいつも私の意思を尊重してくれて、アメリカの生活を体験させてあげたいという思いが伝わってくるくらい良くしてくれた。私の英語が拙いせいで言葉にするのに時間がかかった時も、最後まで聞いて何を言いたいのか確認してくれた。ホストファミリーのおかげで英語力が向上したのは間違いないだろう。今回ホームステイを選んで本当に良かったし、これからもホストファミリーとの交流は続けていこうと思う。



留学を通して得た学び

私は3度目の海外だったが、今回が1番文化の違いを感じた。ホームステイでは現地の生活を身をもって体験するため、現地の人々の感覚も何となく感じ取ることができる。日本人は周りの目を気にしすぎている事やもっと自分に自信を持ってもいいという事を感じた。今回の留学は語学研修という名目であるが、私は語学以上にアメリカの文化について学ぶ事が多かったと思う。もちろん英語力をもっとつけたいという意欲も沸いた。帰国後は、今回養ったリスニング力やスピーキング力を衰えさせないように勉強を続けたい。



今回の留学は、内向的な私にとって大きな挑戦だった。日本にいと周りを気にしすぎる私が、ホームステイなど出来るのかとても不安だった。しかし、アメリカではそんな不安も忘れるくらい刺激だらけで、そもそもアメリカの人々は周りの事などあまり気にしていなかった。この3週間は精神的にも強くなった気がする。これからアメリカで学んだ「自分は自分」の精神を持って強く生きていきたいと思う。